

# 海の温暖化にどう向き合うべきか

海の環境や生き物の分布、そして漁業をはじめとした我々の生活に大きな影響を与えている海の温暖化。私たちはその事実にもどのように向き合うべきなのでしょう？

## ■複雑な温暖化のメカニズム

海水温はさまざまな要因によって複雑に変化するため、海洋温暖化のメカニズムや原因はよくわかっていません。しかし、高知県沿岸の海水温が徐々に上がっており、海の環境や生き物の分布はすでに大きく変化し、我々人間の生活にもその影響が現れてきているのは紛れもない事実です。

## ■止まらない海の温暖化

気象庁が発表した100年後の予測によると、世界中の人がこれまで通り、便利さや経済の発展を重視して暮らした場合には2.1℃、世界中の人が協力して「環境保全」を強く意識した社会を実現した場合でも1.4℃、現在よりも上昇するといわれています。これからの100年、今まで以上のスピードで海の温暖化が進むと予想されているのです。

## ■移り変わる自然の姿 ー変化は自然の本質ー



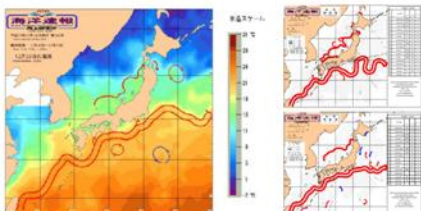
自然の姿は今も昔も常に変っており、それをどうあれ人間の都合のよい状態に押しとどめることはできません。例えば、今から6~8千年前の縄文時代。海面は今より2mほど高く、海は温暖で千葉県房総半島にも豊かなサンゴ礁がありました。その時代の人々は寒冷化に向かって変化する気候とともに暮らしていたのです。我々も、気候変動を嘆くだけでなく、それに適応した暮らしについて考えていく時期にきているのかもしれない。

## <海の温暖化と向き合うために>

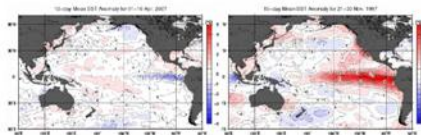
- ・気候や自然環境の変化する姿をしっかりと受け止めよう。
- ・人間活動のすべてが地球的規模の環境変動につながっているということを認識しよう。
- ・何気ない毎日の中でも「環境」を意識して暮らしていこう。

## 日本沿岸の海水温変動に大きな影響を与える要因

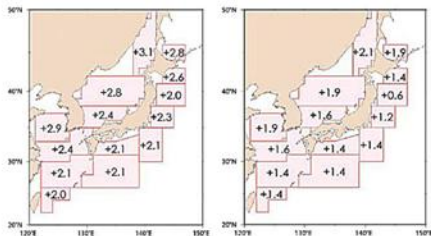
季節、日照、天候、黒潮の流れ方、赤道付近の海水の挙動（エルニーニョ・南方振動）など、さまざまな要因により海水温は複雑に変動します。



黒潮と海面水温の分布（左）、および黒潮の流路の変化の例（右）  
海上保安庁海洋情報部のホームページより



太平洋の海面水温の平年値との差 気象庁のホームページより  
赤色は平年より高く、青色は平年より低い水温を表す。左はエルニーニョ（1997年11月）、右はラニーニャ（2007年4月）の時の様子



日本近海の海面水温の長期変化予測（℃/100年）気象庁資料より  
左：「全てのエネルギー源のバランスを重視して、高い経済成長」した場合  
右：「環境の保全と経済の発展が地球規模で両立」した場合